

まつしろ ある
こども 松代みて歩き

～松代の水～

2013年3月 初版発行

出版元

松代文化施設等管理事務所（真田宝物館）

〒381-1231 長野市松代町松代4-1

TEL 026-278-2801

HP <http://www.sanadahoumotsukan.com>

協力者

大英寺 加賀井温泉一陽館 佐藤嘉一 象山神社 明徳寺

企画制作

松代文化財ボランティアの会

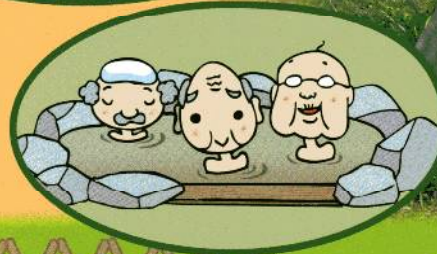
飯島宣公 牛越昭代 大竹 誠 小林博昭 小原啓司 中澤ひろ美

戸谷純子 半田祐子 眞島俊光 松木よしえ 宮澤邦典（順不同）

こども

まつしろ ある
松代みて歩き

～松代の水～



しんじゅうじょう かまちまつしろ
信州 城下町松代では水が

いろいろなかたちで使われています。

人々にとって「水」は今も昔も生活にかかせない大切なものです。今では水道の蛇口をひねると、水が出てありがたさをあまり感じません。城下町松代には、武士や町人がいっしょに使うための水を流す3つの水路がありました。「セギ」は畑に使う水を流す水路。「カワ」は道路沿いを流れ、野菜や鍋などを洗う水に使っていました。「泉水」は各家にある飲み水用の池と、それをつなぐ水路のことで、道の下などは「木樋（木でできた水道管）」で流していました。

松代では飲み水用の水路やその池のことを泉水というよ！



水路の水は、城下東側では湧水を使い、西側では湧水が少なかったため、神田川の水が使われていました。なかでも泉水の水は水道ができた大正時代まで飲み水として使っていました。

千曲川は江戸時代の中ごろまで、松代城のすぐ北側を流れ「自然の堀」としてお城の守りをかためるという役割を果たしていました。また東条には昔からたくさんの泉や温泉があり、豊栄からは藤沢川や関屋川（蛙川）の流れが町中を潤し、人々におおくの恵みをもたらしています。大切な水を工夫して使っている城下町松代のをぞいてみましょう。



まつしろ すいろ
松代の水路 4、5

ぶし だいかんちょう
武士の町の水 ~代官町の水の流れ~ 6、7

い
武士の町の水を活かした町づくり
なげやまちょう せんすい
~竹山町のカワと泉水~ 8、9

ちやうにん
町人の町の水 10、11

えどしたい すいどう
江戸時代の水道と町人 12、13

じやうかまち
城下町を流れた水はどこへ? 14、15

まつしろじやう ほり
松代城と堀 16、17

松代の川と池 18、19

いづみ おんせん
松代の泉と温泉 20、21

こうつうあんない
交通案内 22、23



まつ代の水路



尼巖山

豊栄

カエル合戦の池



舞鶴山

五象斥地震観測所

大音観音堂

開善寺

白鳥神社



西条

警察学校

松代高校

梅の観音

機動隊

松代高枝

松山町

お化粧の池

まつ井の泉

大日池

古葉井の泉

藤沢川

皆神山

クロサキシヨウウオの池

豊栄

東条

松山町

まつ井の泉

大日池

古葉井の泉

藤沢川

皆神山

クロサキシヨウウオの池

豊栄

東条

松山町

お化粧の池

まつ井の泉

大日池

古葉井の泉

藤沢川

皆神山

クロサキシヨウウオの池

豊栄

東条

松山町

お化粧の池

まつ井の泉

大日池

古葉井の泉

藤沢川

皆神山

クロサキシヨウウオの池

豊栄

東条

ぶし 武士の町の水

—代官町の水の流れ—



ぶし 武士の町では水はどんな使われ方をしていたのでしょうか。①カワ②泉水③セギの流

①カワの流れのうつり変わり



しょうわ 昭和初めごろの様子 佐藤嘉一氏所蔵

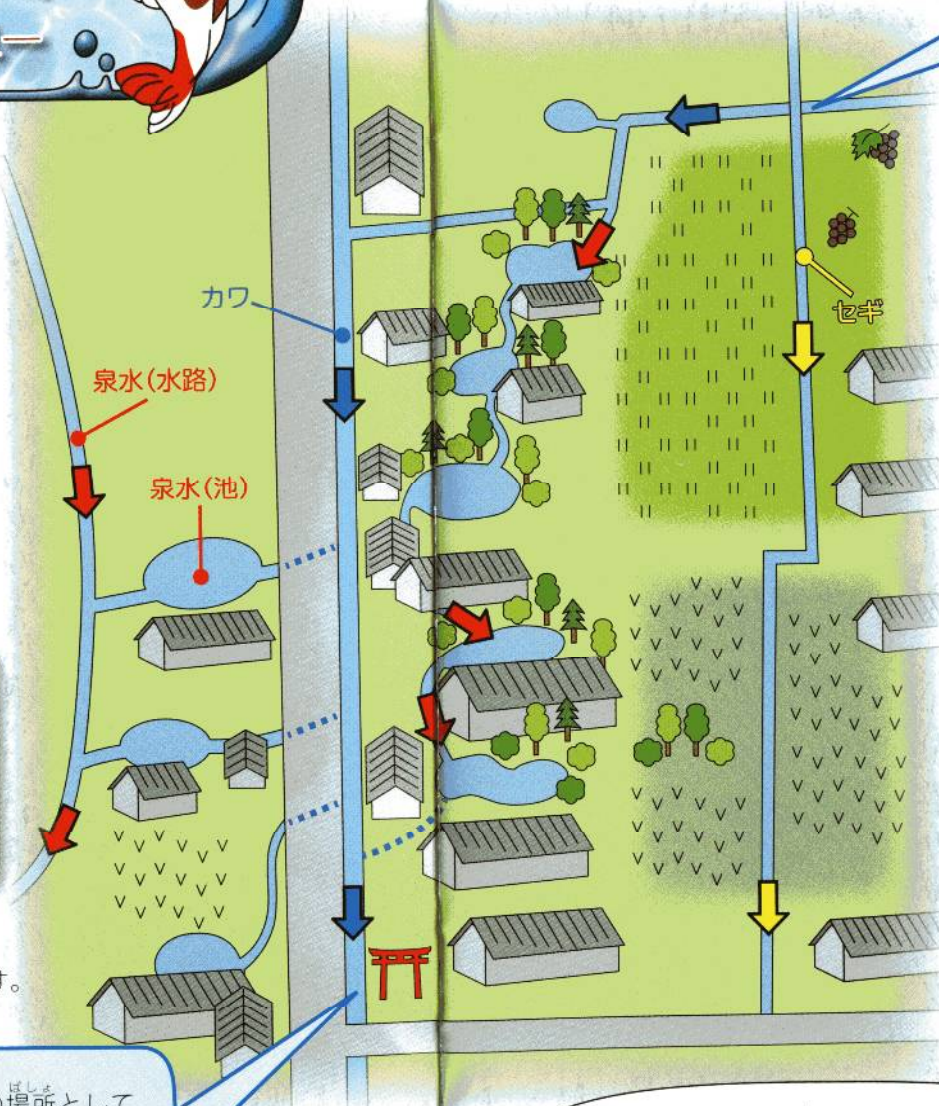
昔は道の真ん中にカワが流れていたんだね!



げんざい 現在の様子
カワは道路の端を流れています。



カワは洗い物の場所としてみんなが使いました。また、火事の際には火を消すために泉水の水を使う約束になっていました。



かんだがわ 神田川から取り入れた水が、他の流れと立体交差しているところもあります。



②泉水の水路は、それぞれの家の庭にある泉水(池)をつなぐように泉水(水路)が流れています。泉水(池)には水面に近づく階段があり、洗い場ともいわれます。ここでしよつき 食器を洗ってコイのエサにもしたそうです。



のこ せんすい 今も残る泉水

③セギは町の境を流れています。武士のお屋敷の裏には畑や田んぼがあり、セギの水を使って野菜などを育てていました。



昔は水道があったのかな? もしかしてカワの水を飲んだのかしら?

この辺りでは井戸水を飲んだんじゃ。井戸を掘るとよい水が出るところもあったんじゃよ。



武士の町の水を 活かした町づくり

—竹山町のカワと泉水—



真田氏が松代にやってきてから開発された、城下南側の侍屋敷である竹山町・代官町・馬場町などでは、神田川から水を取りこみ、南へと流れる水を活かした町づくりがされています。竹山町のカワと泉水を追って確かめてみましょう。

ほとんどのお屋敷に
泉水(池)があり鯉
を飼っていたよ。



やしきまえ
屋敷前のカワ

今は春には流し雛、
夏にはカニ取りでに
ぎわうカワだよ。



ぞうざんじんじゃひがしがわ
象山神社東側のカワ

カワの中にある細いパイプは
真田邸の庭まで水を引くため
のものといわれています。

神田川・
千曲川へ合流



神田川よりも高い場所へ
水を取りこめるように、
上流に取り入れ用の水路
が作られています。



かんたがわ
神田川からは水をせき
止めてカワと泉水へ水
を取り入れているよ。

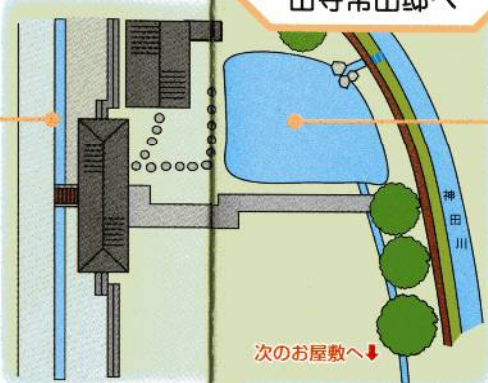


カワへ

泉水へ

神田川

山寺常山邸へ



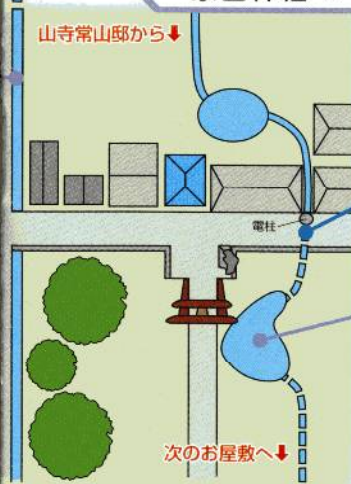
次のお屋敷へ↓



せんすい いけ
泉水(池)

泉水(池)から出た水はしっ
かりした石組みの泉水(水路)
を通り、次のお屋敷の泉水
(池)へとつながっていきます。

ぞうざんじんじゃ
象山神社へ



山寺常山邸から↓

次のお屋敷へ↓

前のお屋敷の泉水(池)
から泉水(水路)を通っ
てきた水が道路の下を
通って神社の庭の泉水
(池)に取りこまれて
います。



ぞうざんじんじゃ
象山神社の泉水(池)

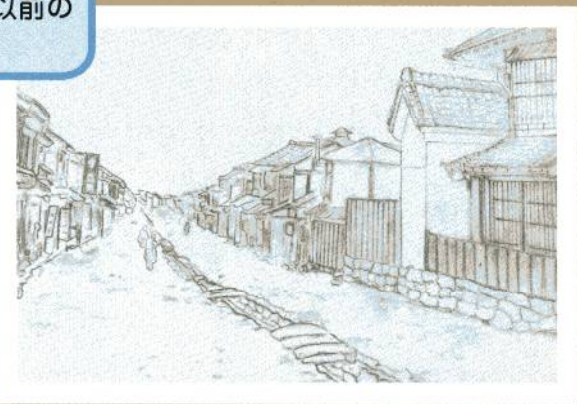
神田川・
千曲川へ合流

町人の町の水



まつしろじょうか なんとう
松代城下の南東の辺りには、いせまち なかまち
伊勢町・中町といったにぎやかな しょうにん
商人の町がありました。道の真ん中を流れるカワは野菜を洗ったり、洗たくをしたりするための暮らしに欠かせない大切なものでした。

めいじ いせん
明治40年以前の
まちな
町並み



真ん中を流れているから、両側の家で使えたんだね!

カワは道の真ん中を流れ、道沿いには商人の屋敷や店が並んでいます。

げんざい
現在の様子



商人の屋敷はそのまま残っていますが、カワは道路わきの地下を流れています。

町人の町を流れるカワは、今のつつみ公園の湧水を水源にしていたようです。この池から町人の町（伊勢町・中町・荒神町・鍛冶町・肴町）を流れ、生活用水として使われました。



今のつつみ公園の湧水は…

江戸時代の絵図です。つつみ公園の湧水やカワの流れが描かれています。



今も残るつつみ公園の池



女池だった公園

つつみ公園の
近くの湧水

つつみ公園には昔の方が今よりずっと大きな池があったのね!



つつみ公園には、昔「男池」と「女池」と呼ばれた二つの池がありました。今残っているのは「男池」で、「女池」は埋め立てられて公園として使われています。



化粧の池

この池の水で顔を洗うとキレイになると言われています。

江戸時代の 水道と町人

江戸時代の中ごろにはカワ・泉水・セギの他に、飲み水などに使う用水(地下水道)がありました。町人の町を発掘調査したところ、土の中から木でできた水道管(木樋)や水をためておく桶(枡)が見つかりました。

用水の水はどこからくるの？

用水の水源はいくつかありますが、大英寺の周りの湧水もその一つだといわれています。



大英寺の湧水

町人が用水を使うには？

用水は、武士の屋敷で使うためのものでしたが、水が少ない時には使わないことや水を汚さないことなどのきまりを守れば町人でも用水を使うことが許されました。



用水を使わせて
ください。
お願いします。
水道のお役人さまへ
町人

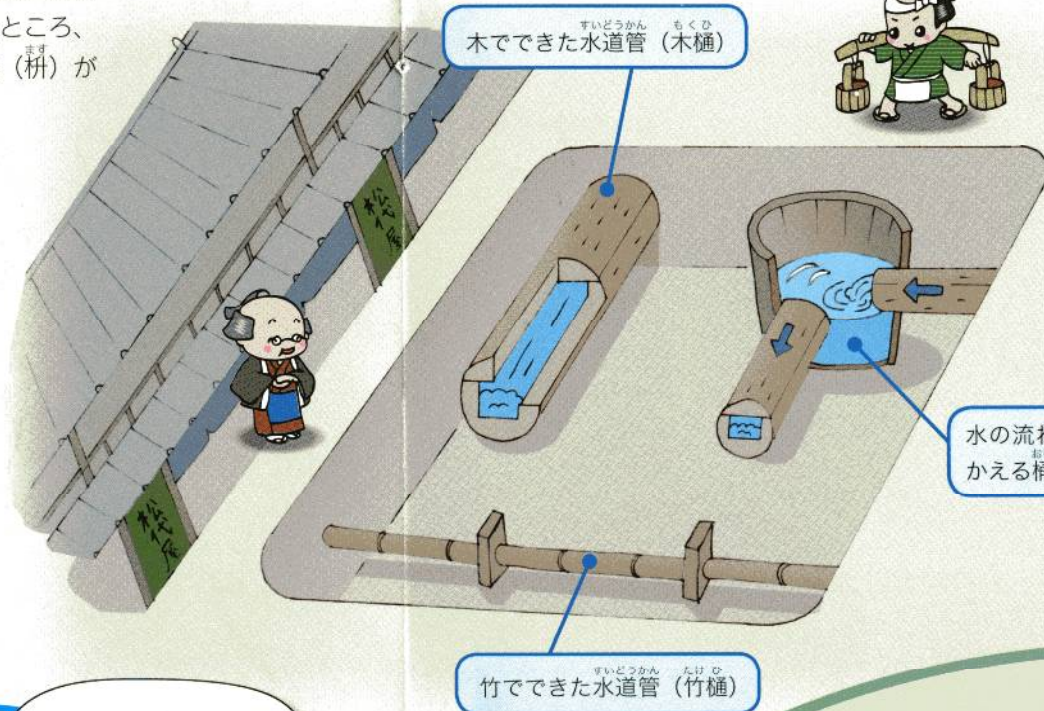
きまりが守れるなら
いいですよ。



松代の銭湯のお湯は
鉄の色(うすい茶色)
をしてるのよ！



発掘調査でできた木樋と枡



水道管が木でできていた
なんておどろいたわあ！



コラム：町人たちのお風呂

江戸時代の町人は家にはお風呂をもたず、町の中にある銭湯風呂を使っていました。男も女も一緒に入っていたようで、みんなが集まる社交場でもありました。江戸時代の終わりに男湯・女湯を分けるよう幕府から命令されましたが、松代では男湯・女湯とわかれるようになったのは、明治時代の終わりごろといわれています。石けんかわりに「米ぬか」、スポンジかわりに「ヘチマ」など自然のものが使われていました。

城下町を流れた 水はどこへ?



城下の家々を流れた泉水は、真田郎にも入り、水路を
通ってお城の堀に流れていきました。泉水の水路には、升
をつくるなどさまざまな工夫をしていました。町内を流
れた用水の水も、飲み水としても使っていたため、藩から
の約束ごとがありました。



真田郎の泉水

きれいな水にする
ために苦労があっ
たんだね!



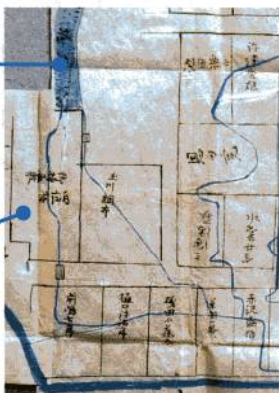
真田郎の泉水の升

泉水の水をきれいにするための
もの。升に入った水をいったん溜
め、汚れが沈んだところできれ
いな水にして次の家に流すしくみ
になっています。

松代城の外堀

今の真田郎

明治時代初めの
真田郎周辺の絵図



各家の泉水を通して真田郎へと水が流
れ、最後はお城の堀へと水が流れているよ
うすがわかります。

用水(地下水道)について
松代藩からのおふれがき

- 一、水は飲み水に使うのでよ
ごさないこと
- 一、水が汚れるのでなべを洗
わない
- 一、洗ったり、すすいだりす
るのは井戸でくみ上げ
た水ですること
- 一、築物屋で出す水は、特に
水を汚すので洗さない
- 一、魚屋は、水を汚すので魚
を洗ってはいならない
- 一、手や足は、井戸でくみ上
げた水で洗うこと
- 一、洗たくをしたり、水あび
はしない

松代城の井戸をみてみよう

お城にあった井戸の水は、おもに飲み水
として使われていました。とてもおいしい
水だったといわれています。

井戸の水と泉水の水。
どちらも飲めたのね!



発掘された本丸内の井戸



復元された二の丸の井戸

まつ しる じょう ほり 松代城と堀



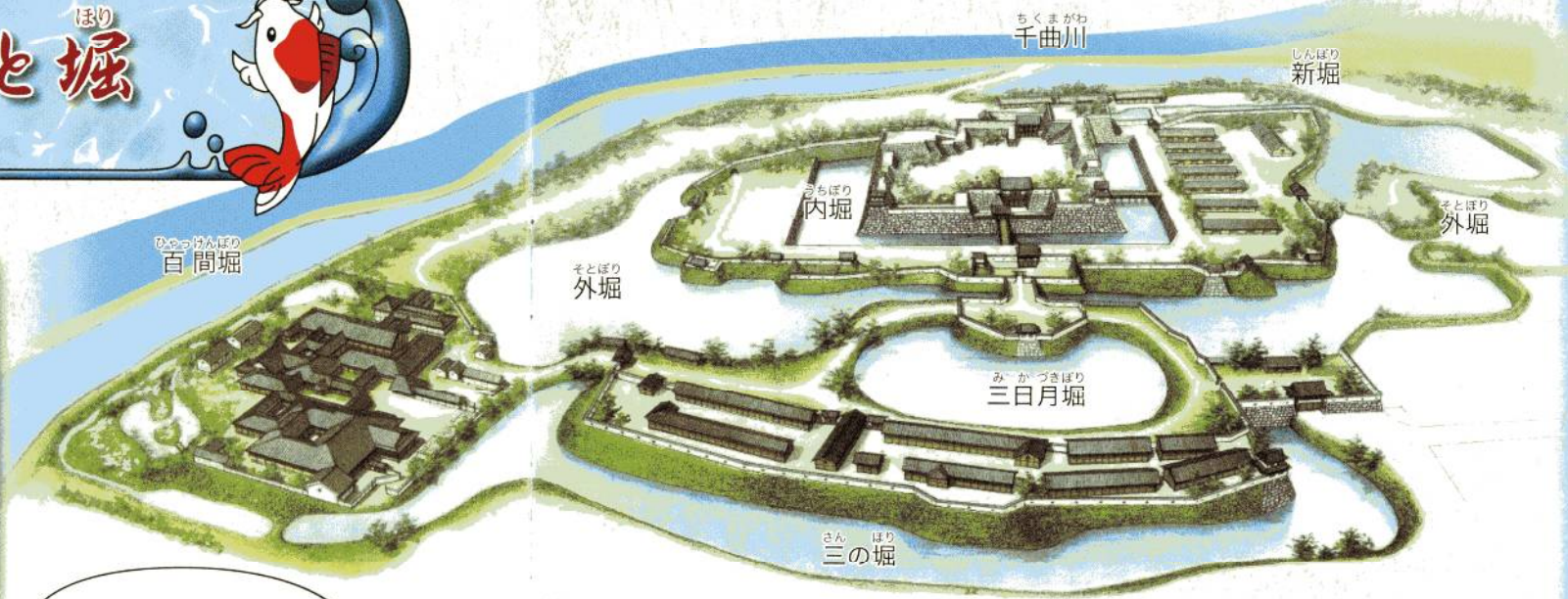
松代城の堀

まつしるじょう かいづきじょう
松代城（海津城）は、ちくまがわ ぼり
千曲川と堀に守られるようにつ
くられましたが、まわりを水で囲まれていたために、江戸
時代中ごろには何度も大きな洪水にあいました。そのた
め、被害にあわないように、千曲川の流れをお城から遠ざ
ける工事をおこないました。

千曲川の流れは、今と
だいぶ違っているね。



お城が洪水の時には、
お殿様もお屋敷から出ら
なくなっていました。その時には、お城か
ら南にある開善寺へ、船
に乗って逃げたこともあり
ました。



いぬ まんすい コラム：戌の満水

寛保2年（1742）に千曲川周辺で大洪水が発生
しました。戌の年にあたるため、「戌の満水」と
呼ばれています。
松代城は、石垣や堀がぐすれ、堀も泥で埋まっ
てしまいました。建物の中には泥が入り、鎧など
の武器も水に浸かってしまったほどでした。城下
でも、関屋川（蛭川）や神田川の水があふれ出し、
家を押し流してしまいました。建物だけでなく、
人や馬も流されてしまうなどの大きな被害でした。

千曲川の流れ「今と昔」
『寛保2年の千曲川大洪水』『戌の満水』を歩く』
信濃毎日新聞出版局編をもとに作成

まつ しろ 松代の川と池

とよさか ひがししょう 豊栄・東条からは保基谷岳をみなもとにした関屋川（蛭川）と
ふじさわ 藤沢川が流れ、城下町松代をうるおしました。



サンショウウオの池



みなかみやま 皆神山のてっぺんには、
サンショウウオの住む池
があるよ！



ふじさわがわ 藤沢川の源流

きまうさん 奇妙山

あまがざりやま 尼殿山

あたごやま 愛宕山

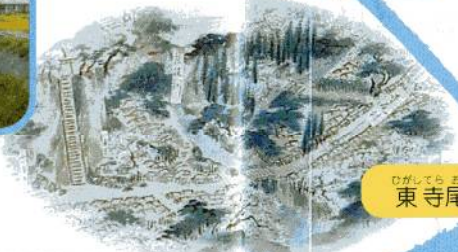


だいいち 大日の池

みなかみやまがわ 皆神山北側のふもとにある池。皆神山
からの湧水が流れこんでいます。



ふじさわがわ 藤沢川と
せきやがわ 関屋川（蛭川）の合流



ひがししろ 東寺尾

ひるかわ 蛭川

ちくまがわ 千曲川と蛭川の合流



ちくまがわ 千曲川



いせ 伊勢町・中町

せきやがわ 関屋川（蛭川）

めいとくじ 明徳寺



ひるかわ 蛭川の源流

ほきやだけ 保基谷岳

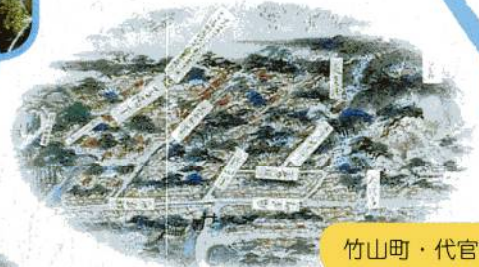
たかとおやま 高遠山

のろしん山

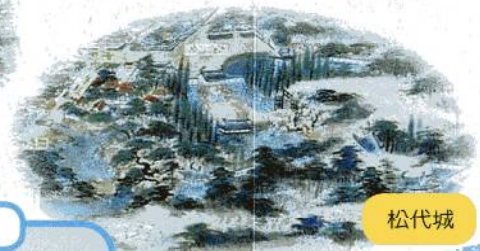
みなかみやま 皆神山

ふじさわがわ 藤沢川

かんだがわ 神田川



たかやま 竹山町・代官町

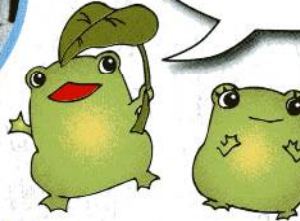


まつしろ 松代城



めいとくじ 明徳寺の池

めいとくじ 明徳寺の池はカエルの産卵
池で、たくさんのカエルが
鳴くことで「かえる合戦の
池」ともよばれているよ！



まつ しる いづみ おん せん 松代の泉と温泉



1 中川の泉

東条中川の真ん中にあるよ。



2 北川の泉

東条善徳寺の上にあるよ。

あまがざりやま
尼殿山

10 加賀井の温泉

江戸時代の中ごろから温泉として使われているよ。お湯の色が茶色なんじゃ。



8 加賀井の泉

南北2か所にあったと言われているよ。



か が い げん だん
加賀井の源泉

か が い
加賀井

10

たまより けのめのみことじんしや
玉依比売命 神社

まつしろま
松代荘

じよふくくし
浄福寺

とうこうじ
東光寺

ぜんとくじ
善徳寺

中川

ひがしじやう
東条

きよたまたかのん
清滝観音

みょうしんじ
明真寺

かきぼとけ
笠仏

しょうぼうくさくおきまほ
消防器具置場

こもい いづみ
古藻井の泉

みなかみやま
皆神山

だいにおいけ
大日池

まつい いづみ
松井の泉

やち
屋地

東条には泉がたくさんあり、昭和47年ころまで家で飲み水や洗いのにつかわれていました。
環境衛生の問題から、昭和47年から水道が作られはじめました。

4 笠井の泉

笠仏の入り口にあるよ。



5 お天神様の泉

笠井の泉の南側にあるよ。



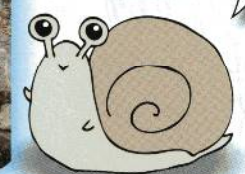
3 南川の泉

東条中川の南にあり、こいがいるよ。



9 瓜割の泉

水が冷たくて瓜が割れたと伝えられているよ。



こうつうあんない 交通案内



松代町内の地図



東条の地図

